

「中・高校生のための薬物乱用防止セミナー」 報告書

日時 : 平成30年8月22日(水) 14時00分～16時00分

場所 : 勝山公民館 山口県下関市秋根南町二丁目4番33号

共催 : 下関市、下関市薬物対策協議会

参加者 : 約160名(市内中学生・高校生、学校関係者、薬物乱用防止推進員、
下関市薬物対策協議会関係者、保護司、市民)

1. 開会あいさつ

下関市薬物対策協議会会長 河井 臣吾

薬物乱用の中でも覚せい剤による検挙が多く、再犯者の比率も高く依存性の強さを裏付けるものとなっている。また近年ではインターネットでの流通などで大麻による若年層への蔓延が懸念される。

薬物乱用を根絶するためには、単に規制・取り締まりの強化ばかりではなく、薬物の恐ろしさや弊害について、正しい知識を若者に伝えることが大事であると挨拶。



2 薬物問題に関する発表



「薬物乱用の実態～DARC 訪問を通して～」

山口県立長府高等学校 生徒会

○薬物依存専門のリハビリテーション施設「北九州 DARC」の訪問を通して感じたことや思ったことをパワーポイントを使って発表していた。実際に薬物に依存していた方の生の声を聞き、誰にでも薬物依存に陥る可能性があることを知る。そしてココロとカラダへの影響をサルの薬物自己投与実験や薬物乱用者の顔の変化の写真を投影し伝えるとともに、薬物に対する正しい知識を身に着けることの重要性を訴える。また、「断る勇気」を持つこと、「薬物の断り方」を動画で再生し、大変解りやすかったと好評であった。



3 「違法薬物に手を出すと… ～少年矯正施設の現場から」

山口少年鑑別所 考査統括 樋口 雅明



はじめに少年審判と処遇の流れについての説明、子どもは「犯罪行為をしそう」というだけでも少年鑑別所に入れられるということを大人と子どものルールの違いからわかりやすく説明。

違法薬物の種類と影響、薬物がもたらす手間なしで手軽に得られる「多幸福感」が、依存を形成し慢性的な中毒、重い精神症状の出現、深刻化となる。

ラットパーク実験から全く歯止めがきかなくなるねずみの様子を知るとともに、一方で

受け入れてくれる環境があれば依存から立ち直ることも可能とのこと伝える。「孤独」と薬物依存の関係、違法薬物と縁のない生活を送るには健全な環境で健康的に暮らすこと、正しい知識・感覚を身に付けておくことの大切さを巧みなパワーポイント演出で説明をし、来場者の興味をひいた内容となっていた。

4 『やめられない・とまらない』の世界」

山口県精神保健福祉センター 所長 河野通英



『やめられない・とまらない』の世界を多くのイラスト、写真を用いわかりやすく講演。わかっちゃいるけどやめられない、止めると反動や禁断症状がでることを、甘いものやカフェイン、たばこ、アルコールを例に紹介。中でもアルコール依存症について詳しく説明。アルコールの適量やパッチテストでアルコールの耐性がわかることを伝える。アルコールへの依存が病的に強くなると健康被害や家庭の不和、事故など重大

な問題を起こすことがあると説明。その他にもネット・ゲーム・マンガ・アニメなどへの依存や恋愛依存にも話が及ぶ。万が一これらの依存に中・高校生が陥っても自分だけで解決できる問題はないので、是非頼れる大人に相談を、と強く訴えた。

5 閉会のあいさつ

下関市薬物対策協議会 副会長 藤井 信幸



発表した高校生と各講師への謝辞と薬防推進員等に対し今後も引き続き薬物乱用防止活動の推進をお願い。また、セミナーへ参加した中高校生のみんなに今日の話がこれから社会に出て活躍する源となるよう期待していることを話し最後の挨拶とした。

★会場写真



